

SDGs、プラネタリー・バウンダリー、サーキュラーエコノミー、タラノア対話
2018年度のトレンドとキーワードを網羅

第10回持続可能なアジア太平洋に関する国際フォーラム The 10th International Forum for Sustainable Asia and the Pacific 【ISAP2018】開催



公益財団法人 地球環境戦略研究機関 (IGES) と国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) は、2018年7月18日 (水) と19日 (木)、パシフィコ横浜にて第10回持続可能なアジア太平洋に関する国際フォーラム【ISAP2018】を開催いたします。

ISAPでは例年、10を超える国際機関、先進国や途上国の第一線の研究者、政策実務者、また自治体やビジネス等のステークホルダーをお招きし、様々なテーマで活発な議論を繰り広げています。持続可能な社会の構築に向けた、国際的な議論と対応策に関する最新動向を把握し、新たなキーワードについて理解を深めることのできる貴重な機会です。ぜひご参加ください。

ISAP2018では、気候変動と持続可能な開発の双方に配慮した取組みを共調的に進めていくことが今後益々重要となる中、「Driving Transformative Actions through Integrated and Innovative Approaches-統合的・革新的アプローチによる変化を加速する」をテーマに、ビジネスや都市、市民社会などによる取組み、低炭素技術、カーボンプライシング、社会にも環境にも優しいランドスケープ・アプローチに、いかにSDGsを統合していくか、などの喫緊のテーマについて、多角的に議論します。これにより、どこにまだ課題があるのかを明らかにしながら、よりバランスの取れた、低炭素で、気候変動に強靱な世界への変革に向けて、アジア太平洋地域の野心度を高めていくことに貢献したいと考えています。

さらに今年には IGES 設立 20 周年を記念し、第 5 次環境基本計画にも反映されたプラネタリー・バウンダリーという概念について書かれた『小さな地球上の大きな世界』の著者であるストックホルム・レジリエンス・センター所長のヨハン・ロックストローム教授をお招きし、IGES が翻訳し、この 7 月に販売開始となる日本語訳版をご紹介します。また、戦略研究で先端を走る IGES 研究員たちが世界の最新の動向をまとめたフラッグシップ・レポートを発表、さらに IGES の歩みをまとめた 20 周年誌もご紹介いたします。

詳細は ISAP2018 ホームページ (<http://www.iges.or.jp/isap/2018/jp>) をご覧ください。

【全体セッションの内容】

1. 資源効率と循環経済：世界的潮流と新たな機会

年々注目を集めるキーワード「資源効率」と「資源循環」は、気候変動とともに、持続可能な開発アジェンダにおける中心的課題となっています。本セッションでは、慶応大学細田衛士教授や国連アジア太平洋経済社会委員会 (UNESCAP) ステファノス・フォッシュー環境開発部長などをお招きし、日本及びアジア太平洋地域における、資源効率及び循環経済への移行に向けた道筋やそれによってもたらされる機会や課題について議論を深めます。

2. 国境を越えた適応計画の地域協力

気候変動の影響は、地方、国、地域、さらに全世界に及んでいます。適応計画の地域協力を推進することは、気候変動の地域影響への取り組みを促し、資源動員、知識移転、適応コミュニケーションといった分野での適応機会を作り出します。このセッションでは、国際総合山岳開発センター (ICIMOD) のデビッド・モルデン事務局長、茨城大学の三村信男学長などをお招きし、日本とヒンドゥークシー・ヒマラヤ地域、ASEAN 地域の経験を持ち寄った上で、共通の気候問題に対応する適応計画と実行のための地域協力を強化する様々な研究機関や二国間機関の役割を探ります。

3. 変革を追い風に-先駆者たちの挑戦

パリ協定が掲げた脱炭素社会への転換には、技術革新を促しつつ、経済・社会システムの再構築という難易度の高い課題に向き合う必要があります。本セッションでは、気候変動に関する政府間パネル (IPCC) の P.R. Shukla 氏、ヴッパータール気候・環境・エネルギー研究所のステファン・レットンボーマー氏、DSM 株式会社中原 雄司代表取締役社長など、先進的な取組を進める研究機関や企業をお招きし、脱炭素社会への転換を見据えた取り組みや、企業の事業ポートフォリオの再構築の事例などを学ぶとともに、より難易度の高い分野での脱炭素化に向き合い、これを地域の持続可能性や企業の競争力に結びつけていくために、それぞれの主体が果たす役割について議論します。

そのほか、9 つのテーマ別会合で、さらにトピックを深堀いたします。

【ISAP2018 開催概要】

- 日 時： 2018年7月18日(水)9:00-17:30 19日(木)9:00-18:00 (両日 8:30 開場・受付開始予定)
- 会 場： パシフィコ横浜 会議センター
(横浜市西区みなとみらい 1-1-1 <http://www.pacifico.co.jp/visitor/accessmap.html>)
- 主 催： 公益財団法人 地球環境戦略研究機関 (IGES)
国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS)
- 協 力： 国連環境計画 (UN Environment)、国連アジア太平洋経済社会委員会 (UNESCAP) 他
- 後 援： 環境省、神奈川県、兵庫県、横浜市、川崎市、北九州市、国際協力機構 (JICA) 他
- 来賓 (予定)： 環境省幹部、神奈川県副知事
- 言 語： 日本語／英語 (同時通訳付き)
- 参 加 費： 無料
- 申込方法： IGES お申込みサイト (<http://www.iges.or.jp/isap/2018/jp>) よりお申込みください。
- 申込締切： 2018年7月3日 (火)

公益財団法人地球環境戦略研究機関 (IGES: Institute for Global Environmental Strategies) について

IGES は、アジア太平洋地域における持続可能な開発の実現に向け、国際機関、各国政府、地方自治体、研究機関、企業、NGO 等と連携しながら、気候変動、自然資源管理、持続可能な消費と生産、グリーン経済などの分野において実践的な政策研究を幅広く行っています。1998 年、日本政府及び神奈川県の支援により設立。本部は神奈川県葉山町に所在し、約 100 名の研究者を擁し、その約 3 分の 1 が外国籍。関西 (兵庫県)、北九州、北京、バンコク、東京の各センター・事務所と共に、グローバル及びアジア太平洋地域のネットワークを生かした戦略研究を展開しています。

国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) について

UNU-IAS は、サステナビリティとその社会的・経済的・環境的側面に注目しながら、政策志向型の研究と能力開発を通じて、持続可能な未来の構築に貢献することを使命とする研究・教育機関です。UNU-IAS の活動には、「持続可能な社会」、「自然資本と生物多様性」、「地球環境の変化とレジリエンス」という 3 つのテーマがあります。また、国連システムの優先課題に取組み、国連における政策決定や議論に貢献することで、国際社会に奉仕しています。本部は東京で、石川県金沢市にオペレーティング・ユニットを置いています。

【このプレスリリースに関するお問い合わせ】

公益財団法人 地球環境戦略研究機関 (IGES)

プログラム・マネージメント・オフィス 広報担当： 庄 (しょう) / 香取 (かとり)

Tel: [046-855-3845](tel:046-855-3845) Email: iges_pr@iges.or.jp <http://www.iges.or.jp/>

国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS)

広報担当： スーザン・ペギース

Tel: [03-5467-1212](tel:03-5467-1212) Email: pegues@unu.edu <http://ias.unu.edu/jp/>